

2023年3月13日

# 計測機器事業説明会

株式会社島津製作所

専務執行役員 分析計測事業部長 馬瀬 嘉昭

# 目次

## I. 計測機器事業の概要

- 1) 業績推移
- 2) 売上高構成比
- 3) 製品ポートフォリオ

馬瀬事業部長

## II. 計測機器事業の成長戦略

- 1) 成長戦略概要
- 2) ヘルスケア戦略
- 3) GX(グリーン)戦略
- 4) 製品戦略
- 5) 北米戦略

的場副事業部長  
中井副事業部長  
富田副事業部長  
岡崎副事業部長

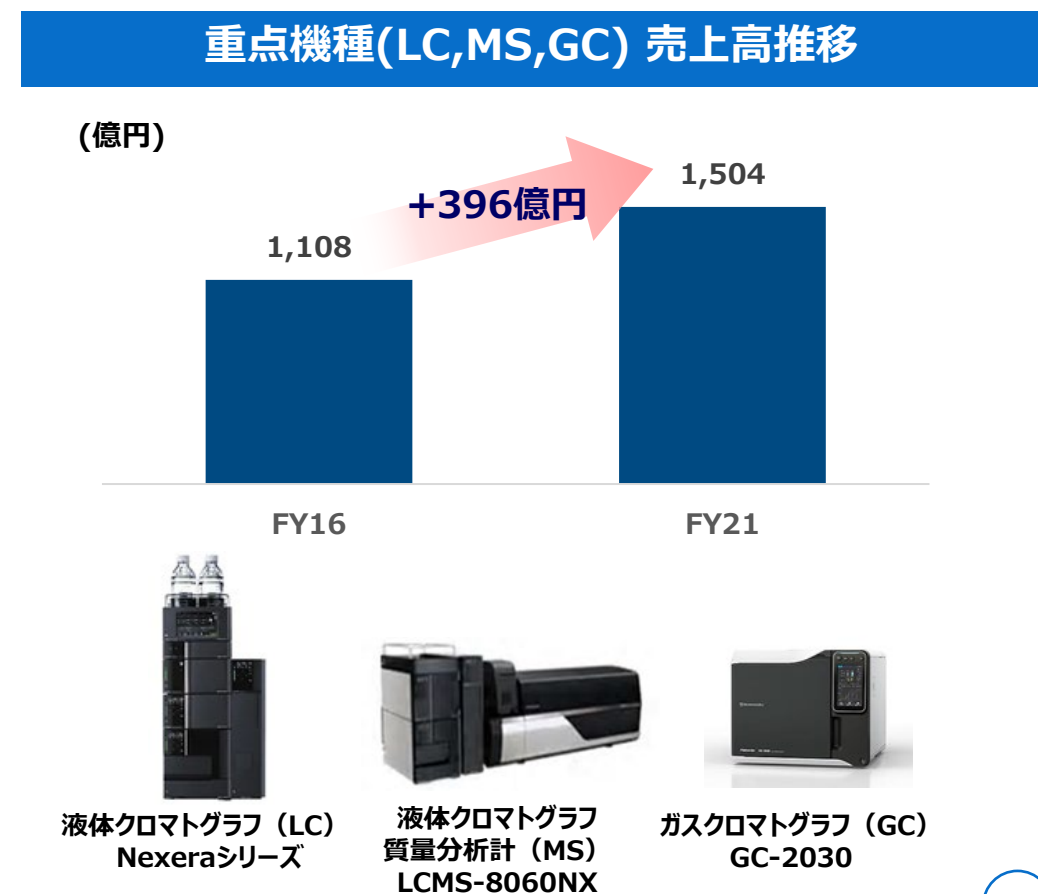
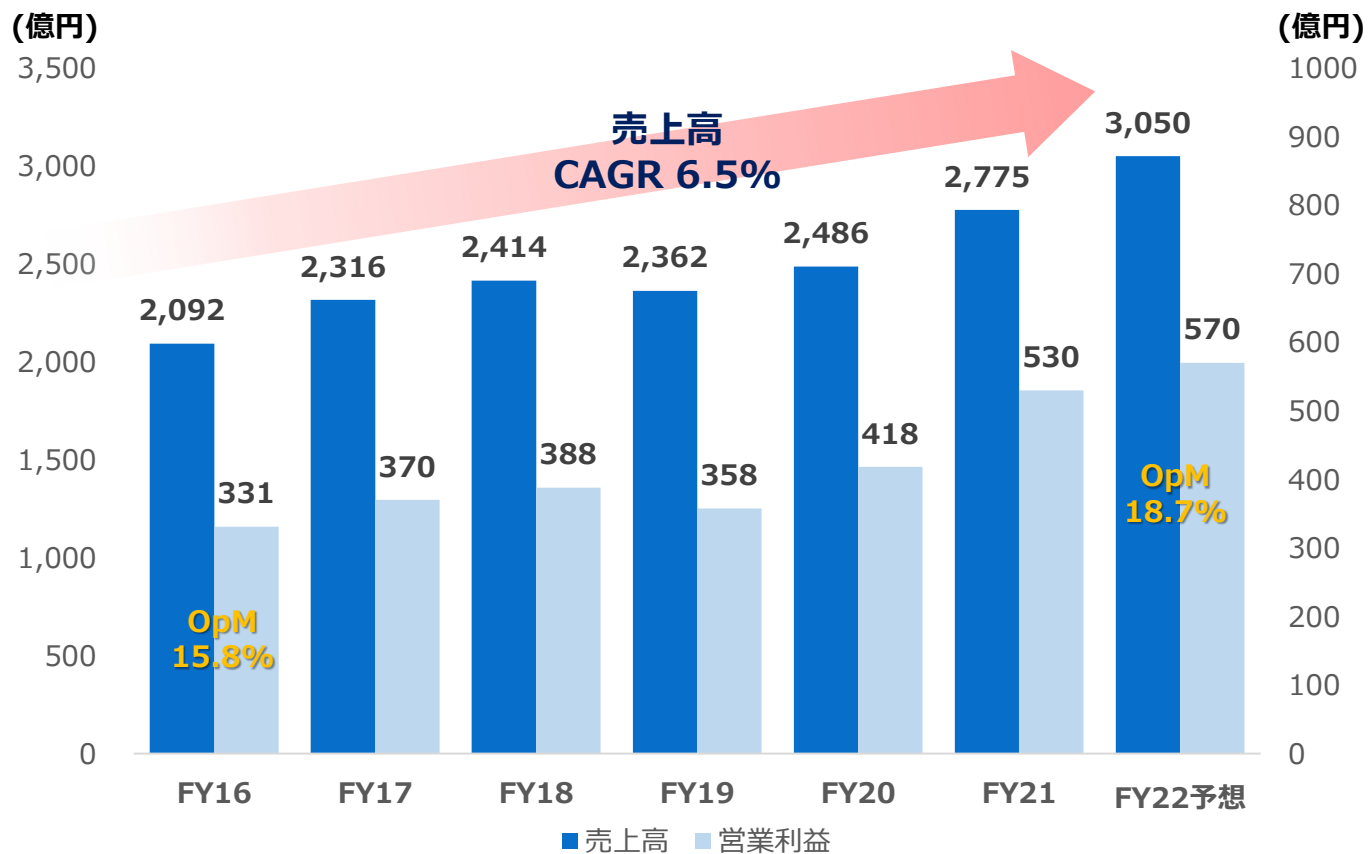
## III. Shimadzu Tokyo Innovation Plaza紹介

岡崎副事業部長

# I 計測機器事業の概要

# 1) 業績推移

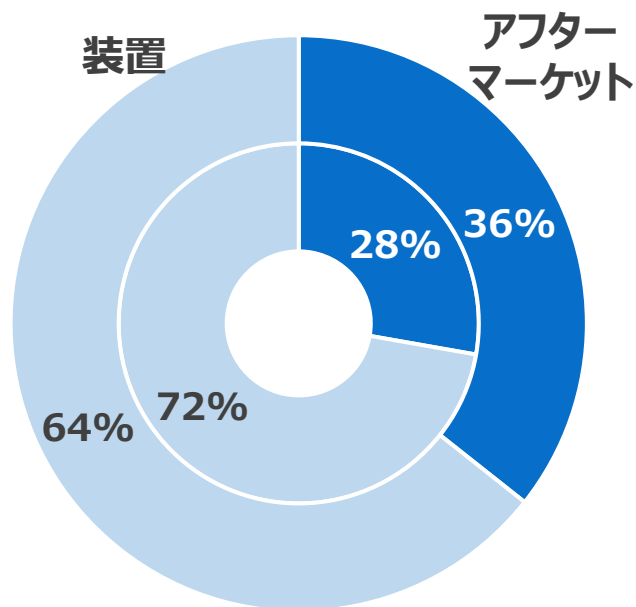
- FY2016-FY2022(予想)の売上高CAGRは**6.5%**と、分析機器市場平均の4.5%を上回って増加
- 高収益の重点機種（LC・MS・GC）が牽引し、計測機器の営業利益率は2.9%ポイント改善の**18.7%**と大幅に向上する見通し



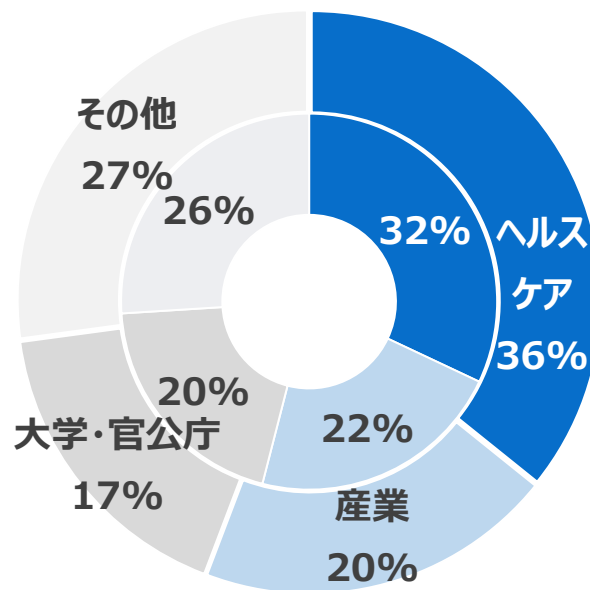
## 2) 売上高構成比

- アフターマーケット比率は消耗品の開発推進により、FY2016-FY2021で8ポイント改善し**36%**を達成
- 市場別では**ヘルスケア**市場向けが伸長、地域別では**海外売上高**比率が向上

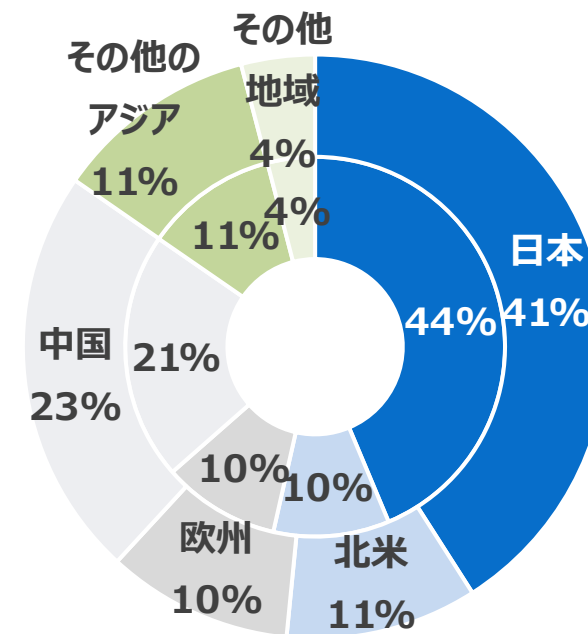
アフターマーケット比率



市場別構成比



地域別構成比



\*円グラフ外側はFY2021、内側はFY2016の実績

# 3) 製品ポートフォリオ



一体型高速液体  
クロマトグラフ  
LC-2050/2060



**New**  
超高速液体  
クロマトグラフ  
Nexera XS inert



**New**  
ガスクロマトグラフ  
Nexis GC-2030



**New**  
赤外ラマン顕微鏡  
AIRsight



**New**  
原子吸光分光光度計  
AA-7800シリーズ



**New**  
質量分析計  
LCMS-9050



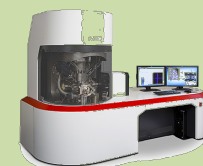
**New**  
質量分析計  
LCMS-8060NX



**New**  
小型SQMS  
LCMS-2050



**New**  
卓上X線CTシステム  
Xseeker 8000



**New**  
光電子分析装置  
AXIS  
ULTRA2



**New**  
精密万能試験機  
オートグラフ  
AGX-V2シリーズ



**New**  
全自動LCMS  
前処理装置  
CLAM-2040

血中アミロイド  
ペプチド測定システム  
アミロイドMS CL



**New**  
マトリックス支援レーザー  
脱離イオン化  
飛行時間型質量分析計  
MALDI-8030



**New**  
新型コロナウイルス変異検出 (オミクロン株)  
E484Aプライマー/プローブセット



**New**  
フーリエ変換赤外  
分光光度計  
IRXross



**New**  
純水用オンライン  
TOC計  
TOC-1000e



**New**  
ICP質量分析計  
ICPMS-2030



**New**  
走査型プローブ/  
原子間力顕微鏡  
SPM-Nanoa

**New**  
新型電子天びん  
APW-AD

## Ⅱ 計測機器事業の成長戦略

# 1 成長戦略概要



# 1) 新中計の方針と事業領域

基本方針

社会価値創生領域であるヘルスケア、GX(グリーン)を中心に、世界のパートナーとの関係を強化し、サステナブルな社会を共創する

		領域	事業分野	サステナビリティな社会実現に向けた課題	当社としての取り組み
事業領域	人の健康		ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん・生活習慣病や感染症、神経・精神疾患などの病の克服</li> <li>高齢化がグローバルに進展する中、健康寿命を伸ばす取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製薬市場：核酸分野と北米地域を重点投資対象として事業を拡大</li> <li>臨床市場：臨床診断・微生物検査・細胞関連を注力分野として事業を展開</li> <li>パートナーとの協業により人の健康に貢献する機能性食品などの提供支援</li> </ul>
	地球の健康		GX (グリーン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水素など新エネルギーやバイオものづくりの普及による持続可能な社会の実現</li> <li>環境汚染・環境規制対策、例えばマイクロプラスチックやPFASのような新たな課題への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能社会に向けた研究開発支援とサプライチェーンでの計測トータルソリューションの提供</li> <li>バイオものづくり、水素など新たな産業創出への貢献</li> <li>新たな環境汚染規制に対する計測方法の開発およびグローバルでの標準化</li> </ul>

## 2) 基本戦略

戦略領域	項目	主な施策
分野戦略	ヘルスケア (製薬、食品、臨床)	<ul style="list-style-type: none"> <li>核酸分野への注力と低分子分野での欧米製薬のシェア獲得</li> <li>機能性食品や代替タンパクなどへの取組によるシェア拡大とブランド向上</li> <li>臨床診断・微生物検査・細胞関連を注力分野とした事業展開と薬機法取得体制整備</li> </ul>
	GX (グリーン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>NEDOなどの規制設定機関との関係強化による新たな標準的な計測方法の構築</li> <li>アプリケーション戦略と新製品戦略によるグローバルでの業績拡大</li> <li>バイオものづくり、水素エネルギーなど新たな産業への計測トータルソリューション提供</li> </ul>
開発戦略	重点事業 (LC、MS)	<ul style="list-style-type: none"> <li>LCは新製品投入とカラムベンダー等との協業推進</li> <li>MSはLCMS、GCMS新製品の上市、ソフトウェア・アプリケーションによる競合力強化</li> </ul>
	強化・収益改善事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動化ニーズへの対応やロボットを含む前処理強化</li> <li>EV市場に試験機の新製品投入やマイクロプラスチック分析装置の投入</li> </ul>
地域戦略	北米	<ul style="list-style-type: none"> <li>北米開発体制の拠点整備と先端技術開発、また臨床事業基盤の獲得</li> <li>アプリケーション戦略、営業戦略、サービス戦略の推進</li> </ul>
	*その他地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州でのグリーン市場、アジアでの食品市場などの育成</li> <li>中国でのハイエンド層への取組やインドでのソフトウェアの強化</li> <li>グローバル営業基盤強化などによるグローバル事業の拡大</li> </ul>
機能別戦略	*製造・サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国での国産優遇策や、サプライチェーン問題などへの対応</li> <li>品質プラットフォーム、据付簡素化などの基盤構築</li> </ul>
	アプリケーション開発 (Solutions COE)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Shimadzu Tokyo Innovation Plazaを拠点としたマーケットインによるソリューションの提供</li> <li>社会実装に向け産業界のパートナーとの連携を強化しビジネスモデルへ発展</li> </ul>

\*報告からは省略しています

## ② ヘルスケア戦略

# 製薬分野のセグメント別戦略

- 製薬市場は成長市場であり、低分子はグローバルに成長、高分子は欧州・アジアで成長、核酸医薬は欧米で成長
- 中分子の核酸医薬に重点投資を行い競合優位を築くとともに、細胞・遺伝子治療では北米で先行投資

分類	2020-2026年 CAGR*	市場環境	当社の戦略
低分子	3.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>後発品メーカー、CROやCDMOが増加</li> <li>連続生産やリアルタイムリリース試験がトレンド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分取LCと超臨界流体クロマトグラフ(SFC)を核に、LC、LCMSのシェアを拡大</li> </ul>
高分子(抗体)	6.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧米中印韓で拡大</li> <li>バイオシミュレーションは工程の複雑さから限定的</li> <li>CROやCDMOが増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>糖鎖解析前処理システムの拡販とMS製品開発</li> </ul>
中分子(核酸)	16.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>急成長中、欧米中心</b></li> <li><b>CDMOが増加</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商材を拡充し、<b>分取・精製製品で競合顧客にも入り込み、ビジネスを拡大</b></li> </ul>
細胞治療 遺伝子治療	36.3% 27.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧米中が成長市場</li> <li>規制は整備途中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最先端技術の取得を北米で進める</li> <li>培地ビジネスからの参入やLCMS用途の探索</li> </ul>

\*出典：経済産業省“バイオCMO/CDMOの強化について”

# 食品分野に向けた取組み

- 農研機構との協業など機能性食品分野への取組みで、**食品業界でのシェア拡大**
- 代替タンパク産業などの新規市場において、**市場創出と規格化・標準化を推進**
- **前処理 + 分析 + 解析のトータルソリューションの提供**
- 規格化・標準化への取組みにおいて、**アプリケーション開発と人材育成を強化**

## 現在の取組み

- **メソッドパッケージ等のデータベースは当社の強み**
- **残留農薬、カビ毒、食品偽装、微生物同定などを中心に提供**
- **LCMSやGCMSのアプリケーションを拡大しながら、デジタルマーケティングを強化**
- **食品分野での標準化戦略の強化**

## 今後の取組み

### 機能性食品

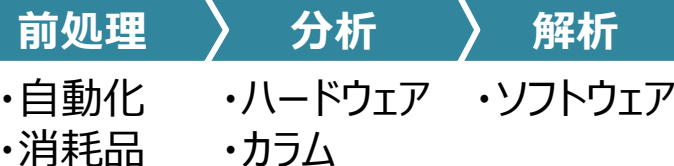
- **農研機構との新たなメソッド開発**
- **メソッドの規格・標準化**
- **テストングラボでの顧客との共同開発**
- **健康長寿社会実現への貢献**
  - ・機能性食品の提供
  - ・コホートでの実証検証



### 製品・技術の獲得

- 食品分野への競合優位なソリューション提供

#### ソリューション



### 新規分野立上げへの参画

- **代替タンパク産業への取組み**
- **新規市場開拓と規制動向調査**

### 規格化・標準化への取組み

- **迅速なアプリケーション開発**
- **人材育成**
- **日本から開始しアジアへ展開**

# 臨床事業の基本戦略

- 臨床診断・微生物検査・細胞関連事業の3つの領域に注力
- 日水製薬(2023年4月より島津ダイアグノスティクス)や保有技術の活用と、M&A等も視野に入れ同領域での事業成長を加速

## 臨床事業


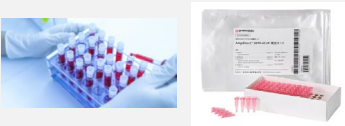



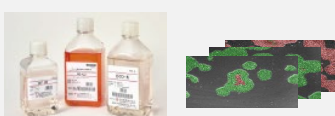
### 注力領域での事業成長

臨床  
診断

微生物  
検査

細胞  
関連

### 事業基盤構築

領域	戦略		
① 臨床診断	<b>プラットフォーム</b> 	<b>消耗品 (試薬)</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラットフォームを構築し、システムの拡販とリカーリング事業を拡大</li> <li>● 日水製薬とAlsachimのシナジー</li> </ul>
② 微生物検査 (臨床)	<b>プラットフォーム</b> 	<b>消耗品 (試薬)</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 微生物検査関連製品をワンストップで提供</li> <li>● 当社と日水製薬の製品技術を活用</li> </ul>
③ 細胞関連 事業	<b>受託サービス</b> 	<b>消耗品・解析システム</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 商材の拡充(計測解析技術と日水製薬の培地技術のシナジー)</li> <li>● 受託サービスの立ち上げ</li> </ul>
事業基盤 構築	各地域で試薬製造・販売・薬機法対応を行う <b>地産地消体制を目指す</b>		

# 領域別戦略① 臨床診断

- LCMS、免疫法検査、遺伝子検査の3つの領域でプラットフォームを構築
- 日水製薬とAlsachimとのシナジーにより消耗品(試薬)を含めた臨床検査システムの開発及びリカーリング事業を拡大

病院/検査機関：Laboratory Automation System (LAS) / Laboratory Information System (LIS)

## LCMSプラットフォーム

**CLAM**(全自動LCMS前処理装置) + LCMS  
**特徴：医療機器対応LCMS (日本初)**

**強み** 成分分析技術  
 (質量分析)



## 免疫検査法プラットフォーム

**Amyloid MS CL、微生物同定**  
**特徴：世界初の薬機法対応検査(アミロイドβ)**  
**特徴あるデータベース (微生物)**

**強み** 高精度な独自診断式(アミロイドβ)  
 検査ラインナップ (微生物)



## 遺伝子検査法プラットフォーム

**AutoAmp**(全自動PCR検査装置)  
**特徴：検体処理不要(AutoAmp)**

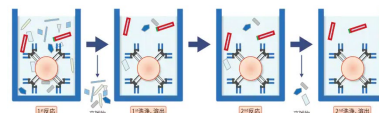
**強み** 施設内測定  
 (迅速な検査結果取得)



- 分析機器**
- 1) 生化学検査
  - 2) TDM (IVD\*対応)

\*IVD = In Vitro Diagnostics

### 1) 血中アミロイドβ検査キット



### 2) 微生物同定検査キット

- 消耗品(試薬)**
- 1) 感染症検査 (主にIVD\*対応)
  - 2) 疾患関連遺伝子検査

\*IVD = In Vitro Diagnostics



日水製薬

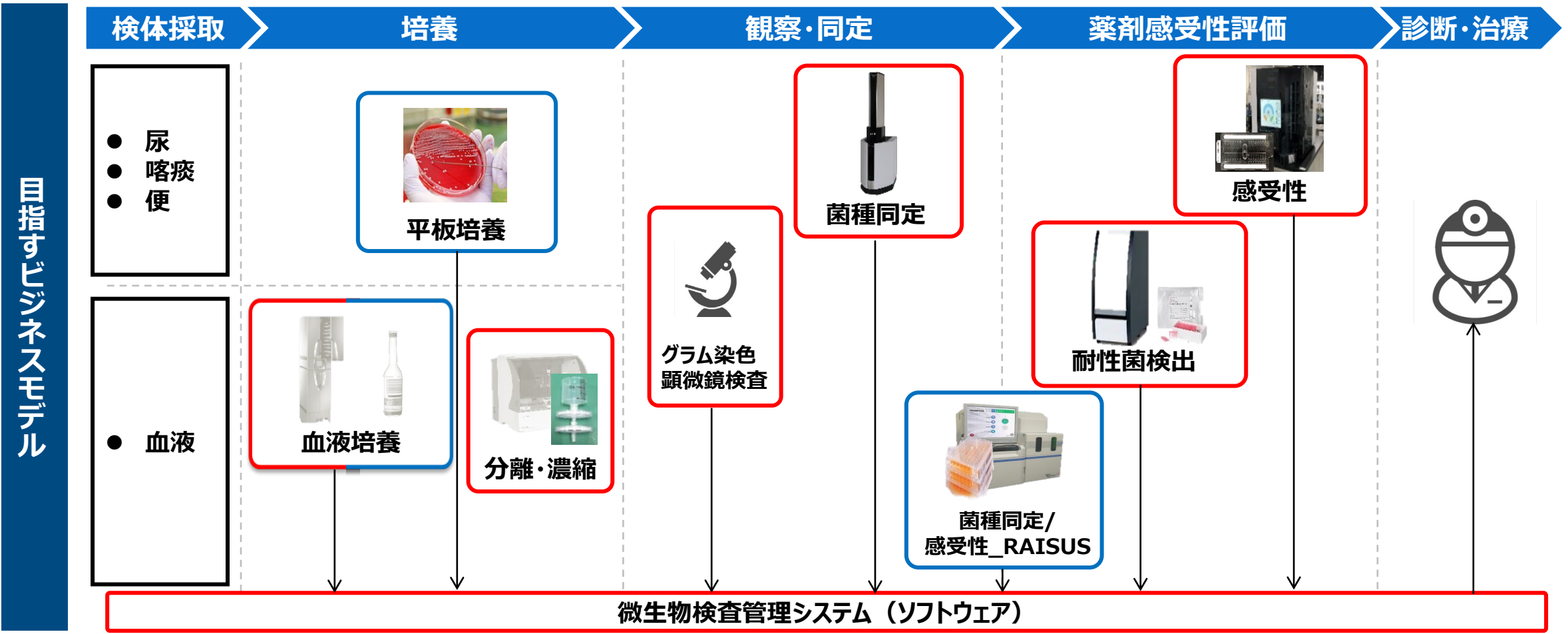


ALSACHIM  
 a Shimadzu Group Company

# 領域別戦略②微生物検査

  当社開発  
  日水製薬製品  
 → 情報の流れ

- 微生物検査とは、病原体を特定し効果のある抗生剤を選定するための一連の検査
- 検査ワークフロー改善のため、各工程の微生物検査関連製品を島津グループ全体でワンストップ提供
- 検査装置をプラットフォームに消耗品を拡充し、リカーリング事業拡大を目指す





# 領域別戦略③ 細胞関連事業

- 当社の計測・解析技術と日水製薬の培地技術、島津テクニサーチ/日水製薬の受託機能を活用し、再生医療・細胞治療市場へ参入
- 製薬/ベンチャー企業の研究開発から臨床応用への橋渡しを支援し、グローバル展開を進める

目指すビジネスモデル

		研究開発		臨床応用		
		培地分析	画像解析	カスタム培地	安全性検査キット	
		<b>LCMS</b> 培養条件AI最適化 	<b>Cell Pocket</b> 		<b>否定試験</b> ・マイコプラズマ ・ウイルス ・微生物 <b>発熱性物質試験</b>	<b>製品残留物質試験</b> ・抗生物質 ・分化誘導因子 ・消泡剤 ・界面活性剤等
<b>本社</b>	製品販売	製品販売	製品販売	製品販売	製品販売	
<b>島津 テクニサーチ</b>	受託サービス	受託サービス				<b>LCMS</b> 受託サービス
<b>日水製薬</b>	カスタム培地向け 受託サービス	<b>LCMSデータに基づく カスタム化</b> 	製品販売	<b>PCR</b> 製品販売 受託サービス		

# ③ GX(グリーン)戦略

# GXで目指す姿

## 新たな計測ニーズへのソリューション提供で社会貢献

- バイオものづくり/新エネ・創エネ・蓄エネ/環境・規制/マテリアル・次世代モビリティの4分野に注力
- アプリケーション戦略と新製品戦略の両面から事業拡大
- 標準化・規制対応については、国内はNEDO、海外はEPA\*、ISOとの関係を強化

### GX 4 分野

#### GX・環境・エネルギー

##### バイオものづくり

・バイオ化学品 ・バイオ燃料

##### 新エネ・創エネ・蓄エネ

・水素/アンモニア ・次世代電池  
・再生可能エネルギー

##### 環境・規制

・CO<sub>2</sub> 吸収コンクリート ・PFAS  
・マイクロプラスチック ・温室効果ガス

#### マテリアル

##### マテリアル・次世代モビリティ

・新素材(軽量素材等)開発

### 短期的な取組み

#### アプリケーション戦略

- 既存アプリケーションを用いた営業活動を支援
- **新規のGXアプリケーションの開発推進**と海外展開

CO<sub>2</sub>を原料とした  
バイオものづくり

環境・規制

新エネ・創エネ・  
蓄エネ

マテリアル・  
次世代モビリティ

#### 新製品戦略

- 開発段階から標準化・規制に対応
- **新製品をラボスケールから投入**しスケールアップを図る

#### 標準化・ 規制対応戦略

- 国内はNEDO、海外はEPA\*、ISO等の規格認定機関との関係強化

### 中長期的な取組み

国際標準化し  
グローバル提供

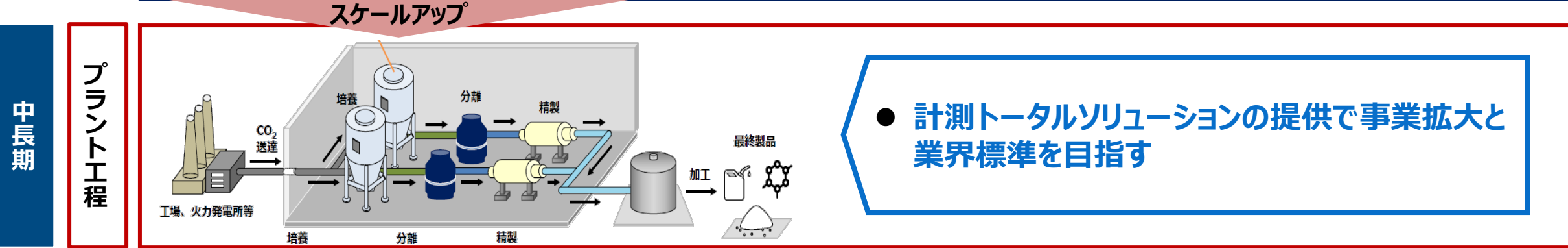


センサーや消耗品を含めた  
トータルソリューション提供

\*EPA=アメリカ合衆国環境保護庁

# CO<sub>2</sub>を原料としたバイオものづくり技術での取組み

- **短期** : 研究開発段階からプラント段階まで、**高次元での多検体・高速生産性評価システムの開発基盤を構築**  
 研究開発は**Autonomous Lab**を中心に**自動化とAIによる研究開発サイクルの短縮化と、分析手法の標準化**
- **中長期** : プラント工程でのGCシステムなど分析装置やプロセス分析技術、培地、消耗品などの**計測トータルソリューションを提供**




# 水素社会に向けた取組み

- 短期 : 水素製造、輸送、利用等の段階に対して、製品ラインアップの強みを活かしアプリケーションを提供
- 中長期 : プラント向けにシステムGC等のオンサイト計測ソリューションを提案


短期

**① GCシステム**



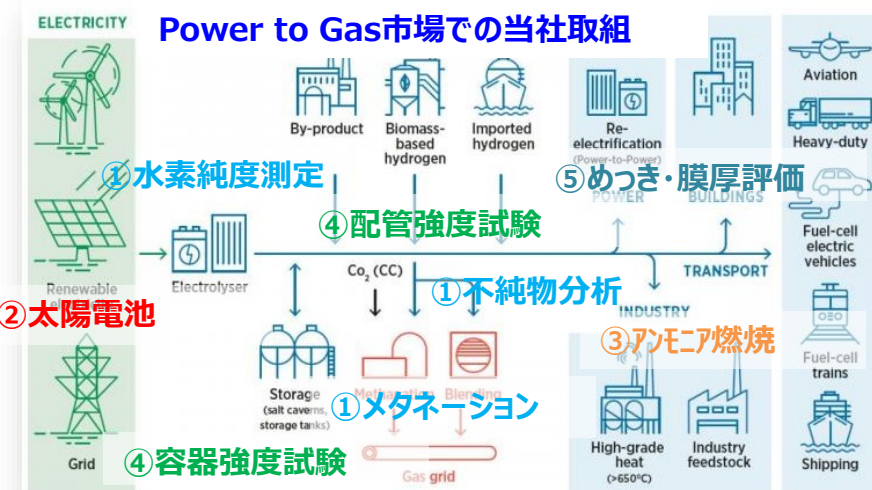
- 高速サンプリング/分析

**② ハイエンドUV**




- ガラスの透過率測定

**Power to Gas市場での当社取組**




**③ ガス分析計**



- 排ガス中のNOxモニタ

**④ 材料試験機**

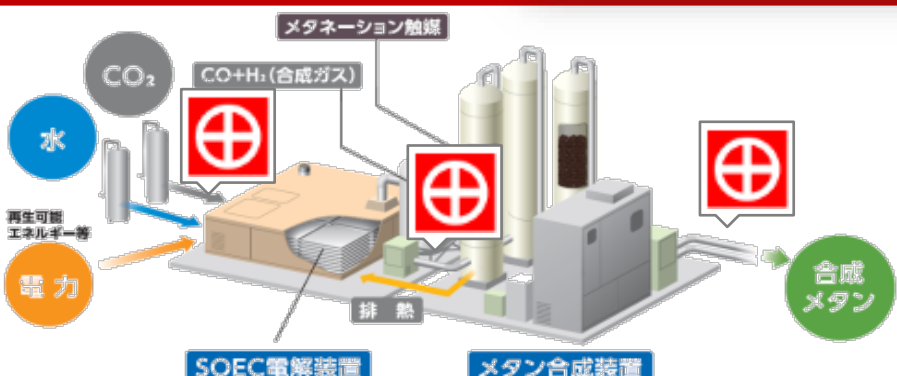


- 水素貯蔵タンク材料評価

中長期

中長期

プラント工程



- ラボレベルからスケールアップしたプラントに向けたソリューション提案
- オンサイト計測に必要な製品の提供

短期

# 4 製品戦略











# 未来ラボに向けた開発推進

- 機種全体にまたがり、ITと自動化の技術が、顧客の現場全体を支える重要なパートになる
- AI技術の活用で属人性を解消し、専門家の育成に悩むラボの運営を支援



# 液体クロマトグラフ

製品投入ヒストリー

振り返り	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広範な装置群で市場全体を広く網羅</li> <li>・一体型LC i-seriesは主力製品に成長</li> <li>・前処理自動化などの活用を積極的に開始</li> <li>・分取や超臨界流体クロマトグラフなどにも幅広く製品強化</li> </ul>		<p><b>i-Series (1<sup>st</sup>)</b> 一体型LC&amp;UHPLC-like</p> 	<p><b>Nexera UC</b> 高性能分析 SFC・SFE</p> 	<p><b>i-Series Plus (2<sup>nd</sup>)</b></p> 	<p><b>Nexera Prep</b></p> 	<p><b>Nexera UC Prep</b></p> 	<p><b>Nexera 40 シリーズ</b></p> 	<p><b>i-Series (3<sup>rd</sup>)</b></p>  <p><b>HIC-ESP</b></p> 	<p><b>Nexera XS inert</b></p> 	<p><b>Nexera lite inert</b></p> 












戦略

- 創薬合成部門/CROを中心に分取LC、分析&分取SFCを強化
- カラムベンダーとの協業を強化
- 臨床市場を中心に自動前処理ビジネスを推進
- チップLCなど使いやすいLCシステム



# 質量分析計

製品投入ヒストリー

振り返り	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
<p>・LCMS-TQは中高級機にラインアップを展開, SQは省フットプリント新製品をリリース。</p> <p>・Q-TOFを参入障壁の低い分野へ投入</p> <p>・機能改良を積み重ねてバージョンアップしブランド構築を継続</p>	<p>LCMS-8050</p> 		<p>LCMS-8060</p> 			<p>LCMS-9030</p> 		<p>LCMS-8060NX</p> 		<p>LCMS-9050</p> 
		<p>GCMS-TQ8040</p> 		<p>LCMS-8045</p> 			<p>GCMS-QP2020NX GCMS-TQ8050NX/8040NX</p> 		<p>LCMS-2050</p> 	
			<p>GCMS-QP2020</p> 	<p>GCMS-TQ8050</p> 						

戦略

- 基幹製品の強化
- アミロイドMSなど臨床分野の事業基盤構築
- 自動前処理 + LCMSに加えて、病院内インフォマと接続するミドルウェア（新規外部協業）と試薬キットで臨床分野へ拡販
- 分野別ソフトウェアの顧客との共同開発
- 用途別メソッドパッケージの強化

# ガスクロマトグラフ

製品投入ヒストリー













振り返り	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
<p>・ハイエンドモデル、ミドルレンジ製品を投入して製品ラインアップ拡充</p> <p>・オートサンプラなど周辺機器を強化し、化学市場、製薬市場での拡販に貢献</p>	<p>Tracera (BID検出器)</p>	<p>GC-2014S</p>	<p>HS-10</p>		<p>GC-2030</p>		<p>SCD-2030</p>		<p>AOC-30</p>	
					<p>GC-2010Pro</p>			<p>GC-2030</p>		<p>HS-20NX</p>

戦略

- 基幹製品の強化
- GX分野攻略で新規市場開拓
- システムGCのグローバル展開

# 試験機

製品投入ヒストリー

振り返り	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022		
<p>・ミドルローエンド引っ張り試験機を投入してアジア市場を中心に拡販</p> <p>・機能強化したハイエンド引っ張り試験機を投入してアプリケーション拡大</p> <p>・複数の測定モジュールを結合するロボット自動機システムを投入</p>	<p>高容量AGSX TRAPEZIUMX</p> 	<p>伸び計</p> 	<p>HITS-X</p> 	<p>76型バルブ</p> 	<p>StrainView</p> 	<p>LabSolution AG</p> 	<p>EMT-5kN</p> 	<p>AGX-V TRAPEZIUMX-V</p> 	<p>マイクロビッカース HMV-G21</p> 	<p>NJ-SERVO</p> 	<p>マイクロビッカース HMV-G31</p> 	<p>新TCE</p> 

戦略

- 試験機とロボットを組合わせた複合システムによる自動化推進
- データインテグリティ機能を強化しデータの改ざんを防止
- 水素環境化試験装置や風力等のグリーン発電関連の大型試験機の投入によるGX市場での拡販

# 5 北米戦略

# 北米戦略

- 北米が世界をけん引している製薬分野と臨床分野での事業拡大。環境分野ではアプリ開発を強化しGTA顧客シェアを拡大
- 製薬分野：強みである分取精製システムで市場認知度を高め、市場ニーズに沿った技術 & 製品開発を進め、競合優位な製品を投入
- 臨床分野：臨床診断、微生物検査、細胞関連の3注力市場における事業基盤を構築

	製薬	臨床	環境
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 核酸分野での競合優位確立</li> <li>● 低分子分野における分取LCシステムによるシェアアップ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 臨床診断、微生物検査、細胞関連市場における事業基盤構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● GCMS、LCMSのヘビーユーザーであるGTA*顧客での引合創出とシェア拡大</li> </ul>
対象顧客	大手製薬企業、バイオベンチャー企業、CRO、CDMO	病院、クリニック、バイオベンチャー企業、CRO、CDMO	テストングラボ（官・民）
機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 販売に加え、開発、製造、サービスを拡充しサプライチェーンを整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 臨床診断・微生物検査：装置/試薬販売、新規市場開拓と製品開発体制を構築</li> <li>● 細胞事業：受託試験からCDMO事業立上げを狙う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 分野マーケティング、アプリケーション開発、GTA顧客への技術サポート</li> </ul>
戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 北米開発拠点整備</li> </ul> <p>製薬業界をターゲットとした、LC、MSでの現地ニーズを取り込んだ製品開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 薬機法対応体制構築</li> </ul> <p>薬機法取得体制を構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際的な規格化・標準化への取り組み</li> <li>● 社会課題解決のためのアプリ開発</li> <li>● GTA顧客との連携で顧客ニーズ抽出</li> </ul>

\*GTA : Global Testing Account

# 北米開発体制強化

- 西海岸・東海岸にそれぞれアプリケーションセンターと開発センターを設置。メリーランドと合わせて、3拠点での開発体制を構築
- 北米開発センターでは、顧客に近いところでニーズを拾い上げるとともに、イノベーションセンターや開発部隊と密に連携し、タイムリーな製品を投入
- LC関係では分取・精製技術の強化、MS関連ではCutting-edge Technology製品の開発

## Phase 2

### 西海岸開発センター(新設)

- 製薬&バイオ系企業やベンチャーとの協働で顧客ニーズにマッチした製品開発



## Phase 3

### 東海岸開発センター(新設)

- 大手製薬上流部門やアカデミアと協働、最先端技術を搭載したMSの開発などを行う

## Phase 1

### メリーランド イノベーションセンター(拡張)

- 目的：先進的な技術を有する重要顧客と共同研究・共同開発を推進する
- 設立：2015年

### アプリケーション開発センター

- 目的：北米顧客ニーズに応えるLCMS中心のアプリケーション開発と顧客サポート
- 設立：2021年

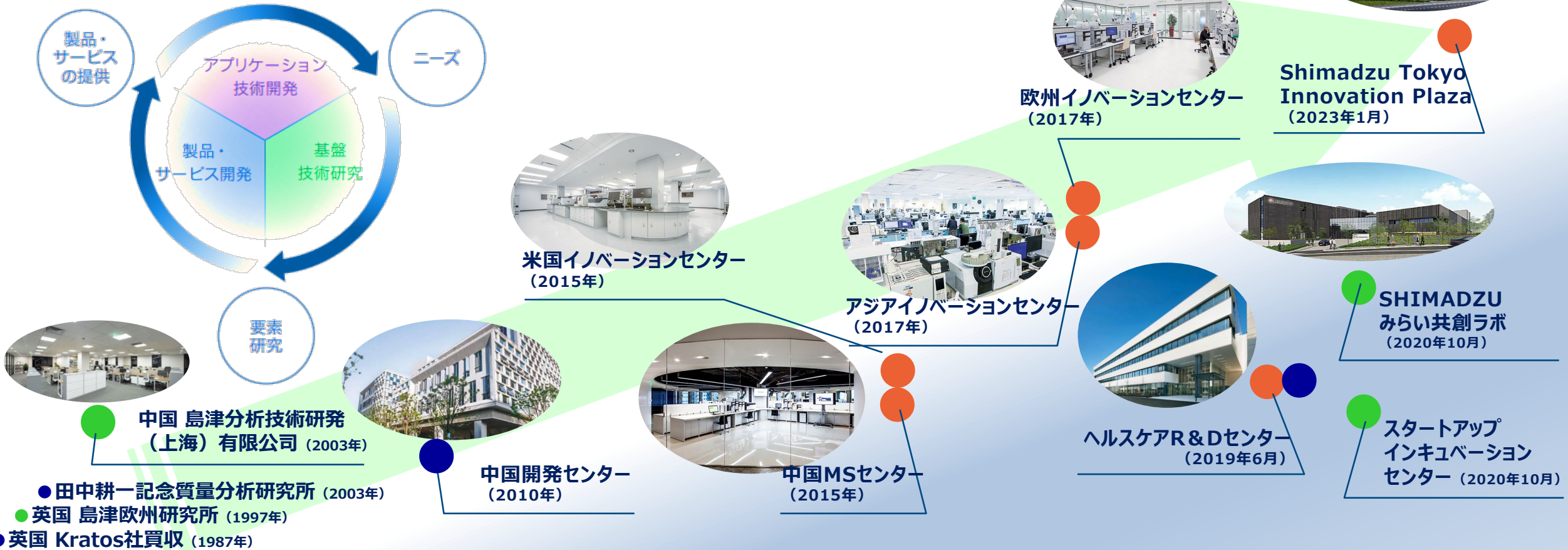
# III Shimadzu Tokyo Innovation Plaza 紹介

### Ⅲ. Shimadzu Tokyo Innovation Plaza紹介

# グローバルな研究開発拠点

- 基盤技術研究
- 製品・サービス開発
- アプリケーション技術開発

- グローバルな成長基盤の強化に向けたアプリケーション開発機能の拡大
- イノベーションを加速し、新事業の創出を促進する基盤技術の開発
- 共同研究・オープンイノベーションを通じた先進的な技術開発・事業化の推進

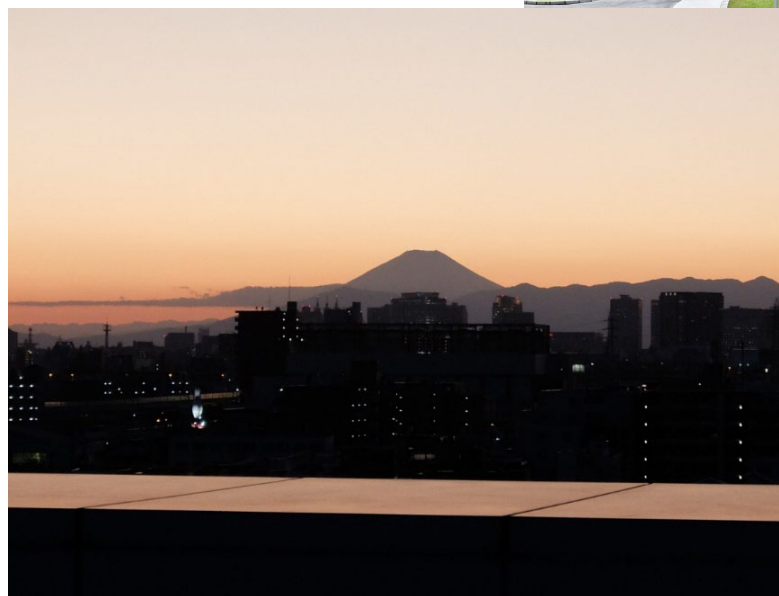




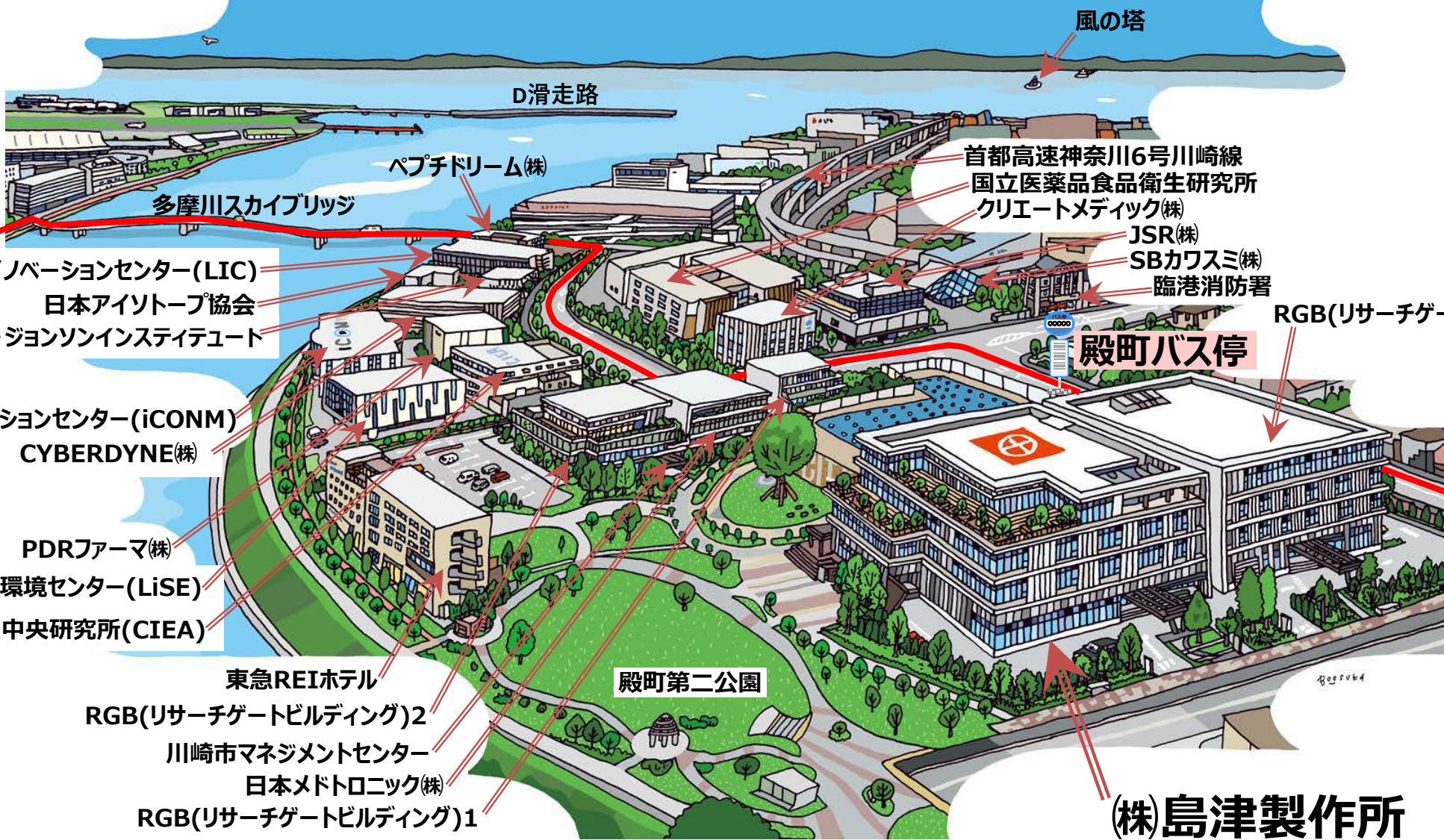
# Shimadzu Tokyo Innovation Plaza

## コンセプト： 「魅せて、繋げる Innovation Plaza」

- ・名称：Shimadzu Tokyo Innovation Plaza  
(殿町事業所)
- ・建物：地上4階建て
- ・延床面積：9,503m<sup>2</sup>
- ・人員規模：約100名
- ・竣工：2022年10月



東京都大田区 ← 多摩川 → 川崎市殿町



バス路線  
至 天空橋駅

バス路線  
至 大師橋駅

(株)島津製作所

# Shimadzu Tokyo Innovation Plazaの目的

社会課題の解決に資する  
分析手法（アプリケーション）の開発

先端分析手法  
の開発

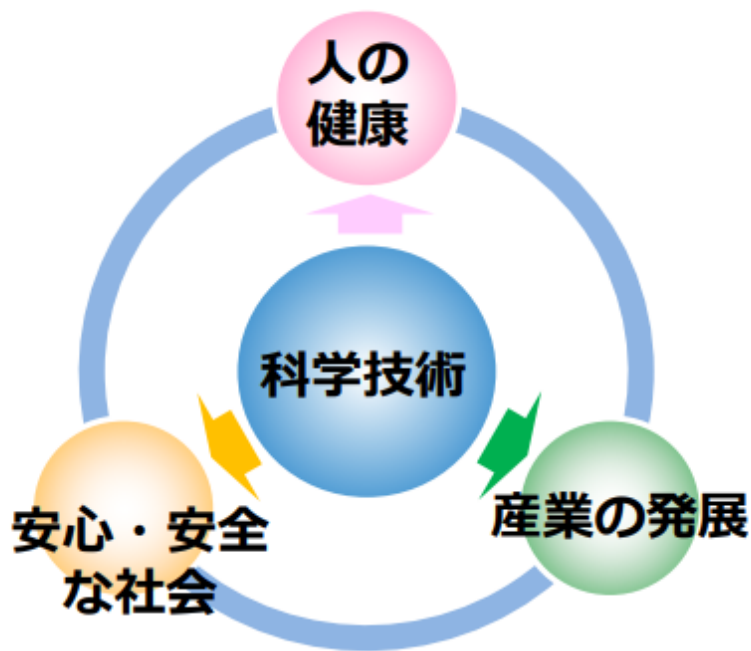
購入検討時の装置見学・デモ  
ラボ新設時の参考となる設備・運用  
装置納入後の技術フォロー

お客様への  
技術サポート

社外連携

立地や設備を活かした共同研究  
イベント、学会の誘致・開催

Ⅲ. Shimadzu Tokyo Innovation Plaza紹介  
 社会課題の解決に資するアプリケーションを開発します  
**アプリケーション開発 ～重点分野～**



**人の健康**

健康寿命の延伸 適切な医療の提供など

**安心・安全な社会**

自然環境の保全や食の安全、 老朽インフラの診断など

**産業の発展**

新素材の開発支援、 輸送機の省エネ・軽量化など

重点成長分野	主要テーマ
ヘルスケア	医療、ライフサイエンス、医薬、食の安全/機能性食品
インフラ	各種インフラ検査、研究開発/製造設備
マテリアル	新材料、機能性材料、複合材料
環境/エネルギー	環境計測/規制対応、再生可能/水素エネルギー

# お客様への技術サポート ～魅せるラボ～

## 1) お客様の参考になるような先進的なラボ

廊下からも見通せる開放的なラボで、先進的な実験環境・働き方をご覧ください。

三條本社工場 京都府京都市	瀬田事業所 滋賀県大津市	殿町事業所 神奈川県川崎市
・測定データ 1.75 mg/L ・測定日時 6月22日10時	・測定データ 5 mg/L ・測定日時 6月22日11時	・測定データ x.x mg/L ・測定日時 x月x日xx時

全有機体炭素(TOC)オンライン測定装置

当社分析機器を使用した実験排水の監視



～魅せるラボ～

## 2) 最新のLab Totalシステム

TOCで実験排水を常時監視し、規制値以下であること確認して放流するシステムの導入や、ガスや試薬の貯蔵量管理・監視・発注の自動化を行います。

ICHIHANA Hall

Main Hall

ラウンジ

大階段

オフィス

Green Science

Optics Science

Healthcare Science

展示空間

Material Science

正面玄関



# Ⅲ. Shimadzu Tokyo Innovation Plaza紹介

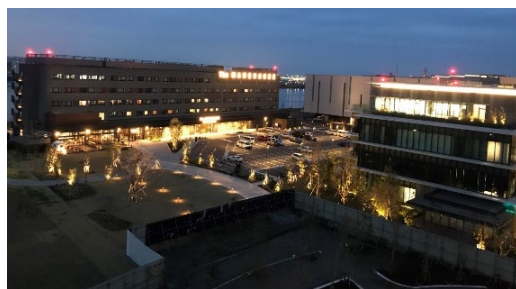
## 国際学会やシンポジウムの開催などにも 社外連携 ～研究者ネットワークの醸成～



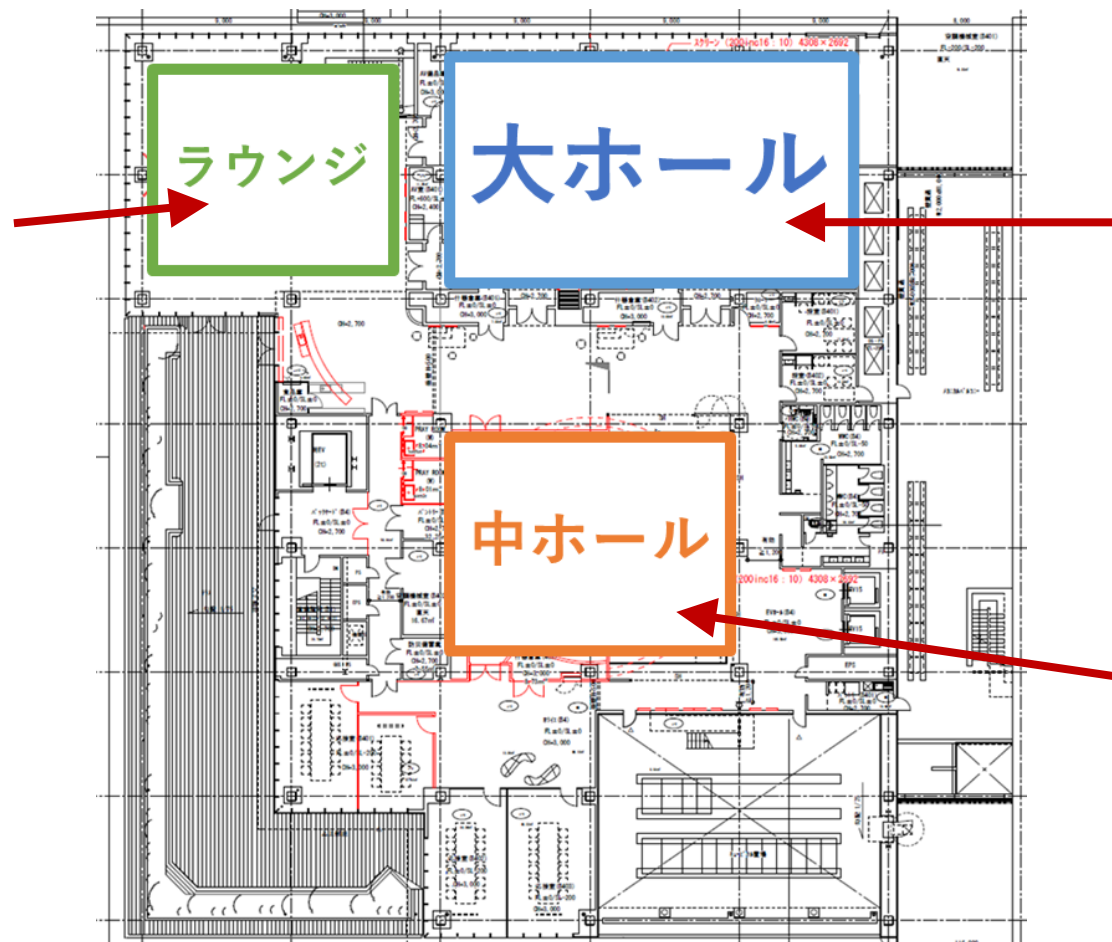
4Fラウンジ



バーカウンター



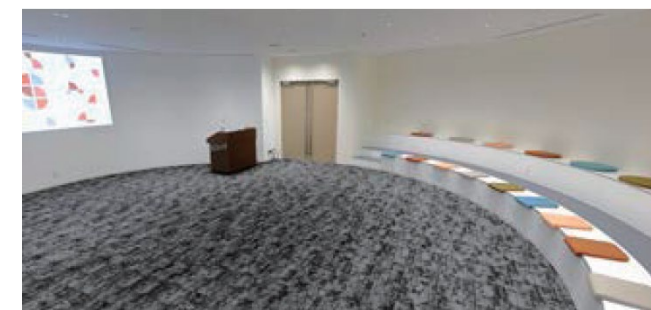
ラウンジからの夜景



両ホール共に  
オンライン形式  
イベントにも対応



Main Hall



ICHIHANA Hall



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所

コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ

電話 075-823-1673

E-Mail [ir@group.shimadzu.co.jp](mailto:ir@group.shimadzu.co.jp)